

令和 2 年 4 月 15 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
551132

代表者 校園名： 大阪市立開平小学校
 校園長名： 赤銅 久和
 電 話： 06-6203-4212
 事務職員名： 長谷川 妙
 申請者 校園名： 大阪市立開平小学校
 職名・名前： 主務教諭 椿本恵子
 電 話： 06-6203-4212

令和 2 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	地域文化としての郷土の伝統音楽を軸とした教科横断的なカリキュラムデザインの探究			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>音楽科における「郷土の伝統音楽」の教材を地域文化の視点で捉え、他教科・領域との横断的なカリキュラムデザインを探求することを目的とする。児童が、自分たちの生活経験を踏まえ、現代の生活とのつながりを見出し、新たな価値観を形成していくことができるようカリキュラムデザインを開発していく。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>2016年度「がんばる先生研究支援」において、本校の位置する船場に伝わる「郷土の伝統音楽」の教材開発、授業づくりに取り組んだ。児童が生活する地域に文化として伝わる「郷土の伝統音楽」を教材として、船場における日々の生活と関連づけ音楽を味わうことができることが明らかになった。2017・2018年度は、その成果を生かし、校内音楽部で、「郷土の伝統音楽」の系統的な音楽科カリキュラムの在り方について実践を通して考え、本校独自の「音楽科カリキュラム」を構築することができた。</p> <p>その中で、他教科・領域と関連させることができ、「より児童の学びを深めることにつながるのではないか」という新たな視点が見いだされた。本校は、2015・2016年度、地域教材を生かした生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムづくりに取り組んだ。2019年度には、その継続的な学びを踏まえ、創立30周年記念式典において、地域文化を紹介する「船場ガイド」という取組によって「船場のよさ」を発表することができた。</p> <p>このようなさまざまな本校における地域を教材とした取り組みを関連付けることで、より児童の学びを、地域と協働して深めることができるのでないかと考える。さまざまな文化的背景も包括して捉えることができるようにして、児童が自らの手で、新たな文化としての創造していくことができるようにならねたい。これこそが、真の継承につながると考える。実践においては、①現代を踏まえた伝承の場の設定、②現代と伝承してきた背景を関連づけた再構成・創造の場の設定により、現代の生活とのつながりを見出し、新たな価値観を形成していくことができるようになる。</p> <p>各教科・領域での学習を実社会における課題解決に生かしていくための教科横断的な教育の在り方が問われている今、このような視点は欠かすことのできないと考える。児童が生活する地域における音楽を軸として、自らの生活に問い合わせることから、新たな価値観の創造、地域文化への貢献へとつなげていくことができるような教科横断的な教育としてのカリキュラムの在り方を提案していきたい。</p> <p>「郷土の伝統音楽」を現代における生活とのつながりから捉え音楽を軸とした学校全体としてのカリキュラムの在り方を考えることで、地域に開かれた学校づくりへの可能性についても探究していきたい。</p>			

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

551132

代表校園

大阪市立開平小学校

校園長名

赤銅 久和

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4～6月 昨年までの実践記録（ビデオ記録・ワークシート）を分析し、「郷土の伝統音楽」と他教科・領域とのつながりを整理する。他教科・領域とのつながりを視覚化したカリキュラムを作成する。</p> <p>6月 これまでの取組について教員・児童へのアンケートを実施する。</p> <p>7月 児童への事前アンケートを踏まえ、単元開発・指導案検討を行う。</p> <p>8月 研究大会に参加し、これまでの実践・新たに開発する実践の課題を明らかにする。</p> <p>9月 8月の研究大会参加を踏まえ、校内研修会を行い、指導案の再検討を行う。</p> <p>10～12月 授業実践を計画カリキュラムに基づき行う。</p> <p>1月 2学期までの実践を再分析し、本年度の実践カリキュラムを作成する。 2月研究発表会にむけ、指導案検討を行う。</p> <p>2月 研究発表会を開催し、参会者アンケートを実施し、成果・課題を明らかにする。 教員・児童への事後アンケートを実施し、事前アンケートとの比較・分析を行い、研究の成果をまとめる。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ○教科・領域横断的なカリキュラムデザインを視覚化することで、全教職員が、学びの関連性を意識した実践を行うことができるようとする。</p> <p>《検証方法》 ○計画カリキュラムを実施していく中で見えた課題を隨時カリキュラム表にまとめていくことで、教科・領域のつながりを明らかにする。</p> <p>【見込まれる成果2】 ○地域と連携した教材開発を行うことで、より地域文化としての「郷土の伝統音楽」のよさを見出し、地域への愛着をもつことができる。</p> <p>《検証方法》 ○活動の事前・事後アンケート（教職員・児童）を実施し、児童が新たに見出した感じる地域文化の項目数を上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 ○自らの身体を通した「郷土の伝統音楽」を学ぶ場を設定することにより、自ら新たな価値観を形成していくことができるようとする。</p> <p>《検証方法》 ○パフォーマンス評価を取り入れ、子どもたちが自ら指針をもって活動に取り組むことから、自己評価・他者評価のポイントを上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果4】 ○教科・領域横断的なカリキュラムとすることで、より文化的な背景を捉え、地域文化としての価値を見出すことができるようとする。</p> <p>《検証方法》 ○教職員・児童アンケート「音楽科における学習が、どのような学習と関連づいていたか」における記入項目数を事前よりも事後で上昇させる。</p>

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

551132

代表校園

大阪市立開平小学校

校園長名

赤銅 久和

		【見込まれる成果5】				
6	見込まれる成果とその検証方法	«検証方法»				
		【見込まれる成果6】				
		«検証方法»				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 2 月 17 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立開平小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 3 年 2 月 17 日	場所	大阪市立開平小学校
日程	令和 3 年 2 月 17 日	場所	大阪市立開平小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>愛日集英が統合され創立した本校は、昨年度創立30周年を迎え記念式典を行った。創立以来両校の伝統を継承しており、その柱の一つに全校で一貫した音楽教育を推進することがある。記念式典においても、全校児童による合唱「羽ばたいて」を披露した。</p> <p>また、本校は大阪の中心地船場を校区としており、大阪独自の文化が最も継承されている地域もある。御靈神社や難波神社、坐摩神社、少彦名神社と古くより鎮座する神社が多くあり、各々祭りも盛大に行われている。祭りは古来の雅楽とも結びついており、船場に根差したものである。</p> <p>本校においては、この船場にこだわった教育実践を開校以来大切に継承しており、今回提案する研究は時宜を得たものであり、本校ならではの実践となるものと考える。学習指導要領の示す学校のカリキュラム・マネジメントを推進する研究とも考えており、今回の提案を是非ご承認をいただきたいきますようお願ひいたします。</p>				